

「謝罪表明」の出現位置と「謝罪表明への応答」 に関する日タイの比較

—フェイスワークの観点から—

ルンタンヤニティトーン チャナントーン（お茶の水女子大学大学院生）

要 旨

本研究は謝罪場面での「謝罪表明」と、「謝罪表明への応答」の連鎖を明らかにするため、日タイ母語話者同士のロールプレイを用い、「謝罪表明」の出現位置に着目し、分析したものである。結果、日本語母語話者（JS）の謝罪する側はタイ語母語話者（TS）の謝罪する側より会話の主要部と終結部で「謝罪表明」を頻繁に行うことが分かった。また、「謝罪表明への応答」について、JSとTSの両者は終結部で「謝罪表明」を受諾することが共通していることが分かった。しかし、JSの謝罪される側は主要部で「謝罪表明」を受諾するだけでなく、問題解決に向けて情報要求、相槌で応答し、相手のフェイスを侵害、そのままにしておく様子も見られた。一方、TSの謝罪される側は主要部で非難や改善要求で応答し、相手のフェイスを重ねて侵害する傾向があった。よって、「謝罪表明」の出現位置は日タイの「謝罪表明への応答」に影響していることが明らかになった。

【キーワード】 謝罪場面 謝罪表明 謝罪表明への応答 フェイスワーク
日タイ対照研究

1. はじめに

相互行為において重要な概念の一つに「フェイス」がある。Goffman(1967)はフェイスを対面的な相互行為の中で描写された肯定的な自己像と定義している。Brown & Levinson (1987)はこの概念を基にポライトネス理論を提唱する中で、人間関係を維持するためには、互いのフェイスに配慮するやり取り、つまり、フェイスワーク（以下、FW）を行うことが重要であると指摘した。具体的には、Brown & Levinson (1987)によれば、人は、互いのフェイスを侵害せざるを得ない時にはそのフェイス侵害行為の度合いを考慮し、適切な行為を選択し、フェイス侵害を最小限にしようとする。そして、このようなFWは様々なコミュニケーション場面に存在し、相手のフェイスに対してどのようにそれを保護・修復していくかを説明するものであるとされる。

人間関係の摩擦が生じやすい謝罪場面においても、会話参加者がどのようなFWを遂行しているのかという点は非常に重要となる。Brown & Levinson (1987)では、あ

る人物が他の人物に迷惑をかけたことを認識した際に「謝罪表明」をすることは、その迷惑による相手へのフェイス侵害行為を軽減すると同時に、自身のフェイスを脅かす行為でもあると指摘されている。すなわち、「謝罪表明」は謝罪する側が謝罪される側のフェイスに配慮する行為であるだけでなく、謝罪する側のフェイスの侵害・維持・修復にも関わる行為であるということである。そして謝罪される側も、人間関係を維持するためには、表明された謝罪に対して許しを示す応答をすることで、相手の損なったフェイスを修復しなければならない。このように、謝罪場面におけるFWの特徴は極めて複雑であり、良好な人間関係の保ち方を理解するためには会話参加者双方の発話を分析する必要がある（ボイクマン・宇佐美 2005、鄭 2011 など）。また、言語・文化によっても謝罪のFWは異なると考えられる。

これまでの日タイにおける謝罪場面に関する研究は、謝罪する側の言語行動を分析したものが主流であり、謝罪される側の応答にも注目した研究はまだ少ない。ウィタヤーパンヤーン（2008）では日本人にとっての謝罪は相手のフェイスを守ることを重視するものであり、自分のフェイスを損なうことも厭わず行われる傾向があるが、タイ人には自分と相手のフェイスを同時に守り、関係を修復するというFWのプロセスがより好まれると論じられている。そのため、このような違いがある中で日本人とタイ人が母語の謝罪表明の習慣をそのまま持ち寄って交流すると、人間関係やコミュニケーションに支障をきたすことが予測できる。

このようなミスコミュニケーションを防ぐために、本研究では謝罪場面において中心となる「謝罪表明」と、その直後に現れる「謝罪表明への応答」の連鎖がどのように産出され、どのように関係を構築していくかを分析し、日本語母語話者（JS）とタイ語母語話者（TS）の特徴を明らかにする。

2. 先行研究

2.1 「謝罪表明」及び「謝罪表明への応答」の定義

「謝罪」という行為は様々な研究者によって定義されている。Olshtain & Cohen(1983)では、話し手が社会的な規範に違反した際、相手に被害を与えたことを認めることで、相手との関係を修復しようとする行為とされている。また、熊谷（1993 p.4）は謝罪を「話し手のあやまちや相手への被害などへの責任を認め、許しを乞い、それによって相手との人間関係における均衡を回復する行為である」と定義している。これらの定義は、話し手が相手に対するあやまちの責任を認めた上で、人間関係を修復することを目指すという点で共通している。Olshtain & Cohen（1983）は謝罪場面における普遍的な「関係修復」の行為として「謝罪表明」、「事情説明」、「責任承認」、「修復の申し出」、「違反しないという約束」の5つを指摘している。本研究では、上述した5つの普遍的な関係修復の行為から、謝罪場面の中核の行為となる「謝罪表明」に着目

し、そのやり取りを明らかにする。そこで、本研究はOlshtain & Cohen (1983)、熊谷 (1993) を参考にし、「謝罪表明」を「謝罪する側は相手との関係修復のために、明示的な謝罪慣用表現を用い、相手への被害に対する責任を認める行為」と定義する。

「謝罪表明への応答」に関しては、熊谷 (2008 pp.31-32) では「謝罪される側は相手の侵害されたフェイスを救う行動、すなわち承認や許しのような行動を取る」と説明している。しかし、この定義では謝罪場面でのFWの複雑さを捉えきれていないとも考えられる。なぜなら、実際の謝罪場面においては、謝罪される側が「謝罪表明」に対して、すぐに許しを示すとは限らないからである。たとえば、謝罪される側は相手に事情説明の機会を与え、不満を表明し、様々な交渉をした上で「謝罪表明」を受諾するといったようなやり取りの中で、より複雑なFWが行われることも予想される。そのため、本研究では、「謝罪表明への応答」を「『謝罪表明』に対して謝罪される側が示す反応で、謝罪する側の損なったフェイスを修復、侵害または、そのままにしておく行為」と定義し、その使用実態を検討したい。そして、その一助として、談話内での出現位置にも着目する。

2.2 「謝罪表明」に関する研究

「謝罪表明」の特徴について日本語と他の言語を比較検討した研究は、謝罪の意識分析、方略分析など様々な観点からなされてきた。まず、日タイの謝罪の意識について、堀江 (1993) では「謝罪表明」はJSにとってはマナーとして頻繁に行われる行為であるが、TSにとっては自分の名誉を失うことになるため、ほとんど使用されないと論じられている。次に、謝罪場面における方略について、日中 (ボイクマン・宇佐美 2005)、日韓 (鄭 2011)、日タイ (ルンタンヤニティトーン 2019) でのロールプレイ会話の分析結果から、JSは「謝罪表明」を頻繁に使用し、相手のフェイスを尊重することが示されている。一方、中国語母語話者、韓国語母語話者、TSはJSほど「謝罪表明」を多く行わず、事情の説明や解決策の提案などの方略を用い、自分と相手のフェイスを守りつつ、交渉していくことが共通して述べられている。

これらの結果から、JSの「謝罪表明」は他の言語より相手との関係を重視する行為であると捉えられる。しかし、上記の研究では会話において「謝罪表明」がどのように産出され、相手との関係を修復するかという点には触れられておらず、この点にも注目すべきであると考えられる。

2.3 「謝罪表明への応答」に関する研究

「謝罪表明への応答」を分析した研究には (大谷 1999、อองวุฒิวัดน์ (Ongwuttawat) 2017 など) がある。大谷 (1999) はテレビや日常会話から収集したデータを分析し、「謝罪表明への応答」として①非難のような行為で謝罪する側のフェイスを脅かす

「フェイス攻撃型返答」、②「うん」という相槌のように謝罪する側のフェイスを脅かしも守りもしない「中立的返答」、③謝罪する側の侵害されたフェイスを回復しようとする「フェイス緩和的返答」の3種類を挙げている。そして、この中でJSが多用する応答は「フェイス緩和的返答」であると指摘している。大谷は日本語のFWの概念を用い、「謝罪表明への応答」の枠組みと具体的な応答のストラテジーを論じた点で評価できる。しかし、謝罪される側が謝罪場面のどの段階で以上の3つの応答をするかは、まだ明らかにされていない。

一方で、TSの研究では、อองวุฒิวาน (Ongwuttawat 2017) が談話完成テスト (DCT) を用いてTSの大学生を対象に、友人関係を想定した「謝罪表明への応答」の使用とその意識を分析している。その結果、TSの応答は「フェイス侵害の緩和：Face mitigation」の方が「フェイス侵害の攻撃：Bald on record」より多用される傾向があったという。また、その背景について、TSの謝罪される側は相手との関係修復を優先しつつ、被害の度合い、相手の取った問題解決の行為という要素も考慮し、応答をする傾向があったということが報告されている。この2種類の応答はJSを対象とした大谷(1999)の「フェイス緩和的返答」と「フェイス攻撃型返答」の分類と同様であると捉えられる。

อองวุฒิวาน (Ongwuttawat 2017) の結果から、人間関係や被害の度合いといった社会的な要素が「謝罪表明への応答」に影響があることが分かった。しかし、「謝罪表明への応答」の使用実態を理解するために、他にも検討されるべき事柄は多い。特に、談話全体の構造を考慮して「謝罪表明への応答」を「謝罪表明」とともに分析することに意義があると思われる。その理由は、実際の謝罪場面において「謝罪表明」が繰り返し行われても、謝罪談話の進行段階に応じて、やりとりが異なってくることが予想されるからである。

2.4 残された課題

よりよいコミュニケーションへの示唆を得るためには様々な観点からの分析が必要であるが、本研究では談話構造の観点から「謝罪表明への応答」にあたって「謝罪表明」の「出現位置」を分析の主眼とする。ザトラウスキー(1993)は電話会話の構造を開始部・主要部・終結部に分け、それぞれの段階によって会話参加者のやり取りが異なると述べている。具体的に、主要部は情報提供、情報要求、同意表明など複数の行為から構成され、終結部は、話し手は相手との関係を維持する段階であるとしている。この3段階を謝罪場面にも応用すると、謝罪談話のそれぞれの段階によって謝罪される側の「謝罪表明への応答」の使用が異なることが予想される。

このように、「謝罪表明」の出現位置を分析することによって、それと「謝罪表明への応答」の使用との関係がよりの確に把握できると考えられる。また、関係修復過程で会話参加者が互いのフェイスにどのように対応し、人間関係を維持するかというこ

とも、談話全体の観点から明らかになる。さらに、得られる結果は教育現場に示唆を与えることもでき、両言語の謝罪の連鎖を理解することにつながることを期待される。

3. 研究課題

本研究ではJSとTSの謝罪場面での「謝罪表明」と「謝罪表明への応答」の連鎖の実態を明らかにするため、以下の研究課題（RQ）を設定する。

JSとTSの謝罪場面において、

RQ1「謝罪表明」の出現位置はどのような傾向があるか

RQ2「謝罪表明への応答」は各出現位置においてどのような使用傾向があるか

4. 研究方法

4.1 データ収集方法

本研究で扱うロールプレイデータは、親しい友人関係にある女子大学生、大学院生のJS同士、TS同士各25組の日タイ母語場面会話データである。協力者の性別の変数を統一する理由は力関係による話し方の違いの要因を排除するためである。データ収集期間は2017年5月から9月までである。JSのデータは東京都内にある大学で収集し、TSのデータはバンコク市内にある大学で収集した。また、ロールプレイの場面設定はボイクマン・宇佐美（2005）を参考に、協力者が実際に経験したことがある借りた物の紛失場面に設定した。場面設定について、謝罪する側への指示は「先週、親友に借りた限定品のDVDを失くした。あなたはそれについて親友と話してください」である。そして、謝罪される側のロールカードの設定は「あなたは先週、親友に映画のDVDの限定品を貸した。しかし、DVDを返す日にあなたの親友は、あなたが貸したDVDに何らかの問題が起こったという。その話を聞いて、会話してください」である。調査手順としてはロールカードを提示し、指示の通りに母語で会話してもらい、ICレコーダーですべての会話データを録音した。また、ロールプレイ終了後、筆者が会話内容の確認が必要と判断した箇所についてフォローアップインタビューを行った。

4.2 分析方法

本研究の分析対象は、謝罪する側が述べる「すみません」、「ごめん」、「ขอโทษ（すみません）」など日タイ語の謝罪の慣用表現を「謝罪表明」とし、その直後に現れた謝罪される側の発話を「謝罪表明への応答」とした。また、分析方法については、RQ1の「謝罪表明」の出現位置は、ザトラウスキー（1993）の電話会話の全体的構造を参考に、主要部と終結部に分けた。主要部の範囲はDVDの話題を切り出してから問題解決するまでとした。本研究で「問題解決」とは、謝罪される側は謝罪する側

が提案した解決策を受け入れたり、自分で問題解決をしたりする発話と定義した。また、終結部の範囲は問題解決の直後の発話から会話の終わりまでとした。なお、挨拶、別れの挨拶は分析対象外とした。RQ1の「謝罪表明」の出現位置のコーディングの仕方については、ロールプレイにある「ごめん」などの「謝罪表明」をすべて抽出し、その回数と組数を示した。なお、一発話で「謝罪表明」が繰り返し使用された場合、その「謝罪表明」を1回と数えた。

また、RQ2の謝罪される側の応答については、「謝罪表明」の直後に謝罪される側が発話したことを「謝罪表明への応答」とし、それ以降継続された発話は分析対象外とした。応答の分析枠組みについては、表1で示すように、大谷（1999）、ボイクマン・宇佐美（2005）、鄭（2011）、อองวุฒิวัฒน์ (Ongwuttawat 2017) を参考にし、6つの応答に分類した。また、「謝罪表明」に対して謝罪される側が実質的な発話をせず、相槌のみを打ったり、笑ったり、応答しなかったりする場合、その応答を【3-F. その他】とした。分析単位に関してはウォンサミン（2016）に従い、意味的なまとまりがある要素を一つの単位とした。また、一発話に複数の応答がある場合、一つ以上のラベルをつけ、それぞれの応答出現回数を示すこととした。コーディングの作業は筆者がJSとTSの会話をコーディングした後で、日本語教育を専門とするJSとTSそれぞれ1名に母語の会話データの再コーディングをお願いした。そして、Kappa係数で計算した結果、協力者が個別に行ったコーディングと筆者のコーディングとの一致率は、日本語は $\kappa=0.875$ 、タイ語は $\kappa=0.911$ であり、両方とも $\kappa>.70$ であるため、コーディングの信頼性が確認された。意見が異なった箇所については、意見を交換し、互いに納得できるまで話し合った上で最終コーディングを確定した。また、日タイの「謝罪表明」と「謝罪表明への応答」の使用傾向を分析するために、カイ二乗検定を行った。

表1 「謝罪表明への応答」の枠組み

分類	行為	定義と発話例
1 フェイス 緩和的 返答	A. 受諾	謝罪慣用表現に対して肯定的で明示的に受け入れること JSの例：うん 大丈夫 TSの例：ไม่เป็นไรนะ (大丈夫よ)
	B. 譲歩	相手の事情を理解したり、同情したりすること JSの例：しょうがないよ 誰でもそうやって物を失くすことはあるし TSの例：該当なし
2 フェイス 攻撃的 返答	C. 情報 要求	相手に更なる説明を求めること JSの例：それ失くしたのはいつ? TSの例：แล้วมันอยู่ที่ไหนอะ? (DVDはどこにある?)
	D. 改善 要求	問題解決のために、相手に何らかの解決策を求めること JSの例：もうちょっと探してもらえると嬉しい TSの例：ไปหาซื้อมาคืนให้ได้นะ (絶対に買って返してね)
	E. 非難	相手に不満を表すために、自分の努力の強調、自分の立場の大変さ または、皮肉、荒いことばなどを言うこと JSの例：あのDVD ちょっと高くて大好きだったから TSの例：เขี่ย นั่นมันเรื่องโปรดของคุณนะ (バカあのDVDは大好きだったんだよ)
3 中立的 返答	F. その他	「謝罪表明」に対し、相槌のみや笑いをを行うこと。または、応答をしないこと JSの例：A：本当ごめん → B：hhh TSの例：A：ขอโทษ เราบรู้ว่าเป็นเรื่องที่ชอบมากอะ (ごめん あのDVD大好きだったよね) → B：อืม (うん)

5. 結果と考察

5.1 RQ1 JSとTSの「謝罪表明」の出現位置

日タイそれぞれ25組のうち、JSの謝罪する側はTSより「謝罪表明」を多用していた(JS:24組で80回、TS:15組で29回)。表2を見ると、JSの謝罪する側は終結部より主要部で「謝罪表明」を多用していたが、TSの謝罪する側は両方の出現位置で「謝罪表明」をほぼ同じぐらい使用していた。また、「謝罪表明」の出現位置によってJSとTSの間には有意差が見られた(主要部： $\chi^2=12.50$, $df=1$, $p<0.05$, $V=0.500$ 、終結部： $\chi^2=5.195$, $df=1$, $p<0.05$, $V=0.332$)。つまり、JSはTSより両方の出現位置で「謝罪表明」を多用していることが分かった。

表2 出現位置によるJSとTSの「謝罪表明」の使用回数

出現位置	JS (回)	TS (回)
主要部	57*	17
終結部	23*	12
合計	80 (24組)	29 (15組)

* $p < .05$

次はJSとTSの「謝罪表明」の会話例をあげる。

会話例1 JS13：謝罪する側、JS14：謝罪される側

----- 主要部 -----

- 03JS13 あのうこの前DVD借りたじゃないですか
 04JS14 うん
 05JS13 あれを：¹⁾：すごい面白かったのね
 06JS14 うん
 →07JS13 本当に申し訳ないんだけど=
 08JS14 =うん
 09JS13 失くしちゃって
 10JS14 あ (中略)
 (発話11-17の概要： JS13は事情説明をし、相手に弁償したいと言っている。)
 18JS14 でもまだそんなに急いで見ないから ゆっくり探していいよ
 →19JS13 いや でも本当に申し訳なくて 本当にごめん あれ高いじゃん
 20JS14 あ いやや (中略)
 (発話21-24の概要： JS13は弁償を再度提案したが、JS14は発話18のようにDVDの返却を急いでいないと返事したため、問題解決の交渉を終了した。)

----- 終結部 -----

- 25JS13 本当にごめん
 26JS14 ゆっくり探してね

主要部でJS13はDVDを借りたことについてJS14に確認した後、07で「本当に申し訳ないんだけど」と言ってから、09でDVDの紛失を伝えている。このように、JS13はDVDの紛失によって、相手の気分を害する可能性を予想していると考えられる。そこで、問題の報告の前に、JS13自身から「謝罪表明」をすることで、責任を認めていると考えられる。また、18でJS14の「ゆっくり探していいよ」の発話に対し、JS13は19で再度「謝罪表明」をしている。ここでJS13は相手から気遣いを受け

たため、「謝罪表明」をすることで、さらに申し訳なさを示す様子がうかがえた。また、終結部でJS13は25で単独の「謝罪表明」をし、再度責任を認めている。よって、JSの謝罪する側は主要部と終結部で「謝罪表明」を頻繁に行う様子が観察された。

会話例2 TS15：謝罪する側、TS16：謝罪される側

- 主要部 -----
- 01TS15 อาทิที่ยี่แล้วเราืมDVDของเธอไปดูใหม่ (先週TS16のDVDを借りたよね)
- 02TS16 ใช่ (うん)
- 03TS15 ที่นี้ เราดูจบแล้วก็หยิบมันมาเตรียมจะคืนแล้วแหละ แต่ที่นี้เราลืมว่าเอาไปวางไว้ที่ไหนอะ (で 見終わって今日返そうと思ってたけど どこに置いたか忘れちゃったんだ)
- 04TS16 เอ้า? แล้วเธอเอาไปวางไว้ที่ไหนอะ (え? どこに置いたか忘れちゃったの?)
- 05TS15 เราขอโทษ เรารู้ว่ามันเป็นเรื่องที่เราชอบมากอะ (ごめん あのDVD大好きだったよね)
- 06TS16 อืม (うん) (中略)
- (発話 07-14 の概要： TS15 は色々な店でDVDを探してみたが、在庫切れのため、買えなかったと説明し、DVDを返すと約束している。)
- 15TS16 เดี่ยวมันก็มีขายเองแหละ เธอไม่ต้องซีเรียสนะ (また発売されるから 気にしないでね)
- 終結部 -----
- 16TS15 โอเค ขอโทษจริงๆนะ (分かった 本当にごめんね)
- 17TS16 ไม่เป็นไรแก (大丈夫よ)

会話例2では、主要部で「謝罪表明」が1回出現した。TS15は03でDVDの紛失を相手に直接に伝えた後、TS16は「え? どこに置いたか忘れちゃったの?」という驚きと情報要求をしている。それに対し、TS15は05で事情を説明せず、「ごめん あのDVD大好きだったよね」と言うことで、相手の気持ちに寄り添い、驚きを緩和しようとしている。続いて、TS15の問題解決の試みの後で、TS16は「また発売されるから 気にしないでね」と言って許しを示している。そこで、TS15は終結部で再度「謝罪表明」をすることで、責任を認める様子がうかがえた。このように、TSの謝罪する側は両方の出現位置で自分から「謝罪表明」をするより、相手から驚きや許しという反応を受け、「謝罪表明」をする様子が観察された。

5.2 RQ2 JSとTSの「謝罪表明」の出現位置による「謝罪表明への応答」

「謝罪表明」の各出現位置において、JSとTSの謝罪される側は表3のように応答をしていた。表3を見ると、JSの謝罪される側は主要部で「謝罪表明」に対して、多種の応答を使用していた。その中で、多用した応答は1-A. 受諾、3-F. その他(それぞれ17回)、1-B. 譲歩(12回)、2-C. 情報要求(11回)であった。

表3 出現位置によるJSとTSの「謝罪表明への応答」の使用回数と組数

分類	行動	主要部		終結部	
		JS (回)	TS (回)	JS (回)	TS (回)
1. フェイス 緩和的 返答	1-A. 受諾	17* (11組)	4 (3組)	17 (14組)	9 (7組)
	1-B. 譲歩	12* (9組)	0	3 (3組)	0
2. フェイス 攻撃的 返答	2-C. 情報要求	11* (9組)	2 (2組)	0	0
	2-D. 改善要求	2 (2組)	5 (4組)	0	1 (1組)
	2-E. 非難	3 (3組)	6 (5組)	0	0
3. 中立的返答	3-F. その他	17* (14組)	3 (3組)	6 (5組)	3 (3組)

* $p < .05$

また、終結部においてJSの謝罪される側は、1-A. 受諾を最も使用していた (17回)。一方、TSの謝罪される側は主要部で2-E. 非難 (6回)、2-D. 改善要求 (5回) の順で使用していたが、2-B. 譲歩の使用は見られなかった。さらに、終結部でTSはJSと同様に1-A. 受諾を最も使用していた (9回)。加えて、「謝罪表明への応答」の使用は両言語の間にカイ二乗検定を行った結果、主要部の応答のみに有意差が見られた (1-A. 受諾: $\chi^2 = 4.667$, $df = 1$, $p < 0.05$, $V = 0.306$ 、1-B. 譲歩: $\chi^2 = 10.976$, $df = 1$, $p < 0.05$, $V = 0.469$ 、2-C. 情報要求: $\chi^2 = 5.711$, $df = 1$, $p < 0.05$, $V = 0.338$ 、3-F. その他: $\chi^2 = 10.784$, $df = 1$, $p < 0.05$, $V = 0.464$)。つまり、主要部でJSの謝罪される側はTSより1-A. 受諾、1-B. 譲歩、2-C. 情報要求、3-F. その他の応答を多用していることが分かった。次は両者が多用する「謝罪表明への応答」の例を挙げる。

会話例3 JS49: 謝罪する側、JS50: 謝罪される側

----- 主要部 -----

(発話01-08の概要: JS49はJS50にDVDを借りたことについて確認している。)

- 09JS49 なんかね 本当申し訳ないんだけど =
 → 10JS50 = うんうん 【3-F. その他】
 11JS49 (.) 多分どっか紛れちゃってhh
 12JS50 うんうん [う::ん (発話13、14: 中略)
 15JS49 すごいごめんていうのと: =
 → 16JS50 = うんうんうん 【3-F. その他】
 17JS49 私ちゃんと探してみるんだけど:
 18JS50 うんうん
 19JS49 もしかしたら? ないかもしれなくて

- 20JS50 あ:あ:ま ま うん
 21JS49 いや本当ごめん
 → 22JS50 あ: >大丈夫大丈夫< 【1-A. 受諾】
 結構前に貸してたから なんか私も貸したこと忘れるぐらいな hhh 期間
 が経って申し訳ないって感じ 【2-B. 譲歩】 (中略)
 (発話 23-26 の概要: JS49 はもう一度 DVD を探すと約束したのに対し、JS50 はそれを受け入れているため、問題解決を終了した。)

----- 終結部 -----

- 27JS49 ごめん
 → 28JS50 うん大丈夫よ 【1-A. 受諾】

主要部の 09-19 まで JS49 は DVD の紛失について説明している時に、09 と 15 で「謝罪表明」をしている。それに対し、JS50 は 10 と 16 で【3-F. その他】の「うんうん」で応答することで、相手の説明を聞いている様子が観察された。つまり、JS50 は「謝罪表明」より相手の「事情説明」への応答を優先していると考えられる。そして、JS50 は 20 で事情を理解した後、JS49 は 21 で「謝罪表明」をしている。それに対し、JS50 は 22 で早口で【1-A. 受諾】の「>大丈夫大丈夫<」と、【1-B. 譲歩】の「私も貸したこと忘れるぐらいな hhh 期間が経って申し訳ない…」と応答することで、相手の申し訳なさを軽減しようとしていると考えられる。また、問題解決の後で、JS49 の「謝罪表明」に対して、【1-A. 受諾】の「うん 大丈夫よ」と応答している。このように、主要部での「謝罪表明」に対し、JS の謝罪される側は問題の解決と相手との関係の両方に注目しつつ、多様な応答をしているが、終結部では問題解決を終了したため、JS の謝罪される側は「謝罪表明」を受け入れる傾向があると分かった。

会話例 4 TS29: 謝罪する側、TS30: 謝罪される側

----- 主要部 -----

- 01TS30 วันนี้ได้เอาซีดีมาให้ปะ? ที่เค้าให้ยืมไปอะ (この前貸したDVD今日返してくれるよね?)
 02TS29 เหยยเค้าขอโทษจริงๆ คือตอนนี้มันไม่ได้อยู่กับเค้าอะ (あ本当にごめん 実は今私のところがないの)
 → 03TS30 แล้วมันอยู่ไหนอะ (じゃ DVDはどこ) 【2-C. 情報要求】
 04TS29 อยู่กับอะอะ เบอกว่าอยากดูเรื่องนี้มานานแล้ว ก็เลยขอขยืมต่อไปอีก (Aちゃんのところにある Aちゃんがこの映画をずっと見たいと言ってたから貸しちゃった)
 05TS29 คือเค้าขอโทษ.. แล้วเขาก็ยังไม่คืนเค้ากลับมาเลย (ごめんね: :それでAちゃんはまだ返してくれないの)
 → 06TS30 แกลองถามเอาได้มั้ย? คือเรื่องนี้มันหายากมากๆ แล้วเค้าก็ชอบมันมากเลยอะ (Aちゃんに

聞いてくれる?【2-D.改善要求】あれはすごくレアで大好きなの【2-E.非難】)
07TS29 คำถามเอแล้ว เอบอกว่าเอไม่รู้เอาไปวางไว้ที่ไหน แต่ว่าเค้าจะหามาคืนTS30ให้ได้นะ (聞
いたけど どこに置いたか忘れたみたい でも必ずTS30に返すね) (中略)
(発話08-11の概要: TS30がAの連絡先を求めたのに対し、TS29はそれに応え、
発話07のように約束を繰り返している。)
12TS30 เอ แต่ถ้าหาซื้อไม่ได้จริงๆก็ไม่เป็นไร ก็แค่อินๆแหละ (うん 残念だけど もう売っ
ていないならしょうがないよ 大丈夫)

----- 終結部 -----

13TS29 ขอโทษนะ (ごめんね)
→14TS30 อิม ไม่เป็นไร (うん 大丈夫) 【1-A.受諾】

主要部において、TS29が02で「謝罪表明」とDVDが返せないことを伝えるの
に対し、TS30はDVDが返せない理由を優先していると思われ、【2-C. 情報要求】の
「DVDはどこ」と応答している。04-05でTS29の詳しい説明と「謝罪表明」に対し、
TS30は引き続きDVDの返却を優先し、06で【2-D. 改善要求】の「Aちゃんに聞い
てくれる?」と「すごくレアで大好きなの」という【2-C. 情報提供】の応答をするこ
とで、相手に問題解決をさらに求めている。そして、TS29は必ずDVDを返すと再度
約束しているのに対し、TS30は12で「残念だけど もう売っていないならしょうが
ないよ 大丈夫」という不満を少し表明しつつ、許しを示している。そして、終結部
で13の「謝罪表明」に対し、TS30は「うん 大丈夫」と応答し、会話を終了してい
る。このように、主要部で「謝罪表明」が行われたとしても、TSの謝罪される側は
問題解決を優先するため、【2-C. 情報提供】、【2-D. 改善要求】などを応答する傾向が
ある。また、終結部では問題解決をしたため、「謝罪表明」に対して【1-A. 受諾】を
応答し、人間関係を維持している様子が見られた。

6. 総合的考察

本研究ではJSとTSの謝罪場面における「謝罪表明」の出現位置と「謝罪表明への
応答」の連鎖の使用実態を分析し、次のような結果が分かった。

まず、RQ1の「謝罪表明」の出現位置について、JSの謝罪場面ではどの出現位置
においてもTSより「謝罪表明」を多用していることが分かった。これについて、「謝
罪表明」の出現位置をFWの観点から考察する。2.4で述べたように、ザトラウスキー
(1993)では、会話参加者は主要部で会話の目標を達成するために、様々な行為をし、
交渉をするとされている。JSの会話例を見ると、この位置で謝罪する側は事情の説明
など他の行為を併用する、または、「謝罪表明」のみを頻繁にすることで、責任を
認め、自分のフェイスを損なうと同時に、相手のフェイスを修復しようとしている

と推察される。一方、TSの主要部での「謝罪表明」の使用が少なかったことについて、TSの謝罪する側は主要部で主に事情の説明や解決策の提案の行為を多用し、自ら「謝罪表明」を行った様子は17回のうち1回しか見られなかった。残りの16回は相手からの非難や情報要求などという自分のフェイスが損なわれる行為を受けたのに対し「謝罪表明」をし、責任を認めている様子がうかがえた。

また、終結部での出現位置について、Clark & French (1981) では、この位置は話し手が相手との関係を維持する段階であるとされている。本研究の謝罪場面の終結部においても、問題を解決したため、JSとTSの謝罪する側は会話を終了する前に、「謝罪表明」をすることで、自分のフェイスを再度損ないつつも、責任を認め、相手との関係を維持しようとしていることが観察される。

次に、RQ2の「謝罪表明」の出現位置による「謝罪表明への応答」について、主要部では、JSの謝罪される側は「謝罪表明」を受諾するだけでなく、情報要求や相槌で応答することが確認された。謝罪する側が事情を説明している時に、「謝罪表明」を併用するとしても、説明について不明点がある場合、謝罪される側は詳しい情報を要求することで、相手の損なったフェイスをさらに侵害している。または、JSの謝罪される側は「うん」と相槌を打つことで、「謝罪表明」を受諾・拒否せずに、相手の損なったフェイスをそのままにしておく様子が観察された。すなわち、JSの謝罪される側は主要部で「謝罪表明」の受諾より事情への理解を優先する可能性があると考えられる。一方、終結部では、JSの謝罪される側は「謝罪表明」を受諾し、相手との関係を修復し合っている様子がうかがえた。JSの結果について、熊谷 (2013) では、謝罪場面においてJS同士は「相互扶助的なフェイス保持パターン：reciprocal face-support」を共有し認識していることが論じられている。このパターンについては、謝罪する側は自分のフェイスを自分で守るのではなく、相手に守ってもらうとされているが、JSの謝罪される側が必ず相手のフェイスの修復の努力するとは限らないと指摘されている。本研究では、主要部と終結部でのJSの「謝罪表明」と「謝罪表明への応答」の連鎖は、熊谷 (2013) による「相互扶助的なフェイス保持パターン」の指摘を支持したと言える。さらに、主要部で納得できる事情説明や問題解決を見出せない場合に、JSの謝罪される側が相手のフェイスを守らない傾向もあることは熊谷 (2013) の指摘を補足できたと言える。

一方、TSの「謝罪表明への応答」については、主要部で謝罪する側が「謝罪表明」をしたとしても、TSの謝罪される側は問題解決を優先すると考えられ、相手を非難し、改善要求をすることで、相手の損なったフェイスを重ねて侵害する傾向があることが分かった。このことは、TSの謝罪する側が自分のフェイスを守るため、主要部で「謝罪表明」の使用を避けることにも繋がっているのではないかと推察される。また、終結部で「謝罪表明」が出現する場合はTSの謝罪される側は受諾のような「フェイス緩

和的返答」をし、許しを示しつつ、相手のフェイスを修復する様子が観察された。このことについては、อองวุฒิวัฒน์ (Ongwuttawat 2017) の「謝罪表明への応答」の結果を支持する点と異なる点が見られた。อองวุฒิวัฒน์ (Ongwuttawat 2017) は談話完成テストの結果に基づいて、「謝罪表明」に対してTSの謝罪される側は「フェイス緩和的返答」を多用したと論じている。しかし、ロールプレイ会話データをもとに出現位置の分析も行った本研究での結果からは、TSは主要部での応答についてはอองวุฒิวัฒน์ (Ongwuttawat 2017) の結果と異なり、「フェイス攻撃的返答」であったものの、この連鎖が終結部に出現する場合は同じく「フェイス緩和的返答」の結果となることが分かった。

7. 総合的考察

本研究では、ロールプレイ会話を用い、JSとTSの謝罪場面における「謝罪表明」の出現位置の要因と、「謝罪表明への応答」との関係をFWの観点で分析した。「謝罪表明」に対して、JSは必ずしも謝罪を受諾するだけでなく、主要部で情報要求、相槌などの応答もし、相手の損なったフェイスを修復したり、侵害したり、あるいはそのままにしておいたりという多様な対応が確認された。一方、TSは主要部での「謝罪表明」に対しては、改善要求や非難など謝罪する側のフェイスを損なう応答をしていたが、終結部では謝罪を受諾する傾向があることが分かった。つまり、「謝罪表明」の出現位置は、JSとTS両者において謝罪される側の「謝罪表明への応答」の使用と、謝罪する側とのFWに影響していることが示唆された。

以上の結果を通して、教育現場への次のような示唆を得た。教師は日タイそれぞれの「謝罪表明」の出現位置と、それに対する応答の様相との関係を学習者に提示し、両言語の特徴を理解させる必要があると考えられる。そうすることで、学習者は日タイの謝罪の連鎖の特徴を意識し、謝罪場面での関係修復をより円滑に行うことができるようになることが期待できる。なお、本研究は親友関係同士の会話であり、分析データが1つの場面のみであったため、得られた結果を日タイ「謝罪表明」の連鎖の特徴として一般化することは難しい。そのため、今後は、場面設定と調査協力者の多様性を増やす必要がある。

注

1) 文字化の記号については、高木・細田・森田 (2016) を参考にした。

[重複発話の開始位置、 = 切れ目のない接続、 h 笑い、呼吸の音

(.) 0.2秒以下の沈黙、 : 直前の音引延ばし

? 語尾の音調が上がっている、 >発話< 早いスピードの発話

参考文献

- ウイタヤーパンヤーノン スニサー (2008) 「日・タイの「謝罪」の発話行為から見た両国の違い」『日本語学論説資料』43、31-43
- ウォンサミン スリーラット (2016) 「不満表明とそれに対する反応に関する研究—日本語母語話者とタイ語母語話者を比較して—」『言語文化と日本語教育』51、11-20
- 大谷麻美 (1999) 「謝罪に対する緩和的返答のストラテジー—ポライトネスの観点から—」『英米学研究』33、73-93
- 熊谷智子 (1993) 「研究対象としての謝罪—いくつかの切口について—」『日本語学』12、4-12
- 熊谷智子 (2008) 「依頼と謝罪における働きかけのスタイル」『月刊言語』37、26-33
- 熊谷智子 (2013) 「日本語の「謝罪」をめぐるフェイスワーク—言語行動の対照研究から—」『東京女子大学比較文化研究所紀要』74、21-36
- ザトラウスキー ポリー (1993) 『日本語の談話の構造分析—勧誘のストラテジーの考察—』くろしお出版
- 高木智世・細田由利・森田笑 (2016) 『会話分析の基礎』ひつじ書房
- 鄭賢兒 (2011) 「謝罪行動とその反応に関する日韓対照研究—ポライトネス理論の観点から—」『言語・地域文化研究』17、95-112
- ボイクマン 総子・宇佐美洋 (2005) 「友人間での謝罪時に用いられる語用論的方策—日本語母語話者と中国語母語話者の比較—」『語用論研究』7、31-44
- 堀江 インカピロム ピリヤー (1993) 「『謝る』—日・タイの謝ることばと行動の比較—」『国立国語研究所報告105研究報告集』14、403-438
- ルンタンヤニティトーン チャナントーン (2019) 「日タイ母語場面における謝罪行動の研究—謝罪する側の謝罪行動の機能とその出現位置に着目して—」『人間文化創成科学論叢』21、125-134
- Brown, P., & Levinson, S. (1987). *Politeness: Some universals in language usage*. Cambridge University Press.
- Clark, H. H., & French, J. W. (1981). Telephone goodbyes. *Language in Society*, 10, 1-19.
- Goffman, E. (1967). *Interaction ritual: Essays on face-to-face behavior*. Pantheon Books.
- Olstain, E., & Cohen, A. D. (1983). Apology: A speech-act set, In N. Wolfson & E. Judd (Eds.), *Sociolinguistic and language acquisition* (pp.18-35). Newberry House Publishers.
- อองวุฒิวัดน์, สิทธิธรรม. (2017). การตอบรับคำขอโทษในภาษาไทยกับข้อคำนึงที่เป็นเหตุจูงใจ. *วารสารมนุษยศาสตร์ปริทัศน์*, [Ongwuttivat, S. (2017). The responding to apologies in Thai and native speakers' motivational concerns. *Journal of Humanities and Social Sciences review*], 19, 1, 95-108.